

令和7年度の事業活動状況




1 展覧会事業（指定管理事業）

事業名	開催日	展覧会の概要	備考
【常設展】 北海道の文学	通年 【309日間】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩、短歌、俳句、川柳、アイヌ民族の口承文芸、児童文学、随筆など北海道の歴史の中で育まれた多くの作品を通年展示しました。 ・また、展示室内に「文学館アーカイブコーナー」を設置し、道立文学館に新たに収集された資料を、年5回に分けて展示しました。 	
<p><常設展アーカイブ></p> <p>4月12日(土)～6月8日(日) 第1期 伊藤整『日本文壇史』を紐解けば</p> <p>6月18日(水)～8月24日(日) 第2期 北の密室考</p> <p>9月2日(火)～11月9日(日) 第3期 函館の作家たち</p> <p>11月19日(火)～R8年1月18日(日) 第4期 村上春樹と北海道</p> <p>R8年1月28日(水)～3月26日(木) 第5期 新収蔵資料から一紙芝居</p>			
【ファミリー文学館】 空を見上げる-太陽・月・星……文学 <教育普及事業>	4月19日(土)～6月13日(金) 【48日間】 <観覧無料>	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れの日、曇りの日、雨降り、満月、三日月、星空など、私たちに身近な四季折々の空の様子。太陽、月、星、雲、雨、雪……。昨年は雪にまつわる文章や作品を紹介。今年は北海道ゆかりの文学(小説、エッセイ、詩、短歌、俳句、川柳、児童文学)の中から春・夏・秋・冬と変化する空の様子を描いた文章や作品を紹介しました。 	
(関連事業)	朗読会、ミニコンサート、ワークショップ、読み聞かせ		
【特別展】 「安部公房展 21世紀文学の 基軸」	6月28日(土)～8月24日(日) 【50日間】	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年生誕100年を迎えた安部公房(1924～1993)。その創作活動は、詩作にはじまり、『壁』『砂の女』などの小説、戯曲、写真、演劇グループ・安部公房スタジオによる総合芸術の追究まで多岐にわたり、自明なはずの名前や身体が揺らぎ、従来の規範が突如として転倒する世界を描いた作品の数々は、国境を越え多くの読者を得ています。本展では、神奈川近代文学館の協力を得て、時代の先端をとらえ続けた表現者・安部公房の作品テーマが持つ意味を21世紀の今日において問い直しました。北海道との縁を紹介する「安部公房と北海道」コーナーも併設しました。 	
(関連事業)	オープニングセレモニー、対談、講演、文芸トーク、上映会、朗読劇<カルチャーナイトイベント>、詩の朗読と音楽、見どころ解説講座		

事業名	開催日	展覧会の概要	備考
【特別展】 「長谷川四郎と そのきょうだい」	9月6日(土) ～11月9日 (日) 【57日間】	<p>・大正から昭和、函館出身の長谷川家の四人の兄弟—海太郎、湊二郎、濬、四郎は、各々文学や絵画などに独自の足跡を記しました。長兄・海太郎は林不忘、牧逸馬、谷譲次の3つのペンネームで異なるジャンルでそれぞれ人気を博しました。次男・湊二郎は、静謐な画風の画家として評価される一方、「地味井平造」の名で探偵小説を執筆しています。三男・濬は、満州時代に翻訳しベストセラーになった動物小説「偉大なる王」(バイコフ著、1941年。)があり、三人三様に活躍しました。</p> <p>末弟・四郎(1909～1987)は従軍と捕虜体験を下敷きにした小説「シベリヤ物語」(1951年)や「鶴」(1953年)で注目を集め、その後も淡々とした表現のなかに、時空を自在に往来しつつ詩情とユーモアを湛えた創作を続けました。</p> <p>本展ではこの才能溢れる四兄弟、とりわけ四郎の仕事に注目し、その自由人の境地から生まれる文学の魅力に迫りました。</p>	
(関連事業)	オープニングセレモニー、講演会、朗読とトーク、上映会、見どころ解説講座、ギャラリートツアー		
【特別展】 「シリーズ刊行 20年 おばけの マールほんがだ いすき！」	11月22日 (土)～ 令和8年 1月18日(日) 【45日間】	<p>・「まちのちかくのまるやまにおばけのマールがすんでいました」ではじまる絵本シリーズ。かわいいおばけのマールが札幌を中心としたいろいろな場所に出かけていき、すてきな体験をするお話で、少しでも多くの人たちが地元にある宝物に気づき親しんでほしいという願いがこもっています。</p> <p>2005年に『おばけのマールとまるやまどうぶつえん』が刊行されてから20年。節目となる今年の新刊では、マールが北海道立文学館を訪れて大冒険。20年の歩みをふりかえり、新刊を味わいながら、身近な場所をあざやかにやさしく彩ってくれるマールの世界に、展覧会をとおしてふれていただきました。</p>	
(関連事業)	オープニングセレモニー、作者によるトーク、よみきかせとコンサート、ハッピー♡マールタイム(よみきかせなど)		
【特別展】 「文学コレクションの 輝き 2026 年」	令和8年 1月31日(土) ～3月22日 (日) 【44日間】	<p>・1966年の最初の北海道文学展以降、連綿と続けられてきた北海道文学館の収集活動。現在の資料点数は38万点を超えます。原則、分野別・作家別などに分類されて配架される資料ですが、中には、収集時のまとまりを保ったままそれぞれの特色を存分に発揮しているものもあります。これらは「〇〇文庫」、「〇〇コレクション」とも呼ばれています。例えば、装幀の美しい本が揃う蘭繫之文庫、作家の書斎を覗いたような船山馨文庫、北海道文学論考の基礎資料が集まる小笠原克文庫など。本展はそのような「文学館コレクション」に光を当て、コレクション自体が持つ魅力は勿論、文学の魅力を深く掘り下げ、また意外性のある資料との出会いもお楽しみいただきました。</p>	
(関連事業)	オープニングセレモニー、講演会、講座、ギャラリートツアー、ミニ解説&朗読会		

2 教育普及事業

(1) 負担金事業（指定管理事業）


項目	実施時期	事業内容	備考
夏休み文学道場 「中高生のための創作講座」	8月8日 (1日間) 動画配信 7/1～8/31	中学生、高校生を対象に創作する上で必要な心構えと文章技術の両面に及ぶ実践的なワークショップを実施。動画配信と集中講義形式で、現在活躍中の作家・小路幸也氏から直接、作品を創作するためのアドバイスを受け実作を試みました。 ・添削講座 5名(うちオンライン参加3名) ・動画視聴 12名	
北海道小中高生短歌コンテスト	7月1日～ 9月10日	小中高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰するほか、ロビーに展示 ・表彰—特別賞(北海道教育委員会教育長賞、北海道立文学館賞、北海道歌人会賞、北海道新聞社賞)、優秀賞、佳作、入選 ・審査結果発表 10月31日<ホームページ掲載> ・表彰式 12月13日 ・ロビー展示期間 12月6日～令和8年1月18日	
～わくわく～ こどもランド	5月～3月 (17回)	幼児、小学生と保護者を対象に文学館に親しむ教育的事業を実施する。紙芝居、絵本読み聞かせ、人形劇、工作教室など幅広い内容の事業を実施	
映像作品鑑賞のつどい	6月22日 8月24日 11月16日 2月15日	文学館が道民に親しまれる文化施設となるため、文学館にあまり足を運ぶ機会のない人を対象として、文学性、娯楽性、作品としての完成度などを総合的に勘案して開催 ○ 「天下を取る」、「あした晴れるか」、「斜陽のおもかげ」 「こんにちわ20才」	
出前講座	5月～12月 (21ヶ所)	地域の文学振興を図るため、文学館に足を運ぶ機会の少ない地域を対象として、市町村(図書館、公民館等)、文化団体、学校等との共催で、財団の役員等を講師やアドバイザーとして派遣し共催で事業を実施 ○ 教育委員会(今金町民センター、壮瞥町地域交流センター、旭川市中央図書館、奥尻町海洋センター、北広島市立西部中学校、鹿部町立鹿部小学校、木田金次郎美術館、札幌市中央区民センター、北見市立中央図書館、雨竜町公民館、新ひだか町図書館、北広島市輪厚児童センター、豊富町定住支援センター、市立富良野図書館、池田町立図書館、網走市オホーツク・文化交流センター、鷹栖地区住民センター、函館市文学館)、道立学校(函館養護学校、拓北養護学校)	

項目	実施時期	事業内容	備考
ミニ巡回展	7 地域	地域の文学振興を図るため、文学館に足を運ぶ機会の少ない地域を対象として、市町村(図書館、公民館等)、文化団体、学校等との共催で、文学資料や展覧会で使用したパネル、キャプション等を貸出しする事業を実施 ○ 蘭越町民センター、市立留萌図書館、幕別町百年記念ホール、苫前町公民館、利尻富士町立鬼脇公民館、壮瞥町地域交流センター、釧路市中央図書館	
文字・活字文化の日関連事業	10月26日(日)	文字・活字文化の振興を図るため、文字・活字文化の日(10月27日)の趣旨にふさわしいテーマの講演会を開催 ○ 講演会「声の響きあう場を求めて」	
古典の日記念朗読会	11月1日(土)	古典の日(11月1日)制定を記念し広く古典について関心・理解を深めるため、古典を読む朗読会を開催 ○ 朗読作品 「羅生門」「藪の中」ー琵琶の伴奏付きー	
月例朗読会	5月～3月(第3木曜日・11回)	常設展をPRするため、朗読グループ(ボランティア)の協力を得て、北海道ゆかりの作品などを中心に月1回開催 ○ 「北の響～名作を声にのせて」	
カルチャーナイト2025	7月25日(金)	札幌市内の公共・文化施設や企業施設が1日だけ夜間開放するカルチャーナイトに参画し、夜間開館を実施 ○ 常設展の無料開放、古書バザール、朗読劇阿部公房「赤い繭」、夏の夜のコンサート「マリンバの調べ」	
資料閲覧・研究支援	通年	本道ゆかりの作家の作品を直接手に取り、鑑賞・研究を支援するため、閲覧室に司書を配置。	

(2) 財団自主事業

項目	実施時期	事業内容	備考
文学館カレッジ	5月～3月	広く文化全般をテーマに、各分野の先端の知識を学ぶ講座を開設 ① 知里幸恵と「アイヌ神謡集」を読み解くⅡ《小野有五》 ② 北海道文学アラカルト ・「永遠の未完成 宮沢賢治」《中村三春》 ・「寺山修司の俳句～少年時代の嘘～」《五十嵐秀彦》 ③ 絵本を学ぼう 21世紀の絵本たちが伝えるもの《杉浦篤子ほか》 ④ 生涯読書会「現代小説と現代詩を読みましよう」《工藤正廣》	
項目	実施時期	事業内容	備考

芸術週間関連事業	11月1日～6日(芸術週間)	<p>当館の周知を図るため、あまり足を運ぶ機会の少ない人を対象にアマチュア演奏家によるチョロの独奏、ハープ、ギターのコンサートを開催</p> <p>11月1日(土) ヴァイオリン、クラリネット、バセットホルン、ファゴットの演奏</p> <p>11月2日(日) クラシックの名曲、映画音楽の演奏</p> <p>11月6日(木) サクソフォン四重奏</p>	
ロビー展示	4月～3月	<p>文章パネル・写真パネルなどを展示し、北海道文学への誘いとして文学への関心や常設展・特別展の観覧を促す。</p> <p>① 4月19日(土)～7月3日(木) 「ポスターでたどる文学館」の30年・第1回」</p> <p>② 8月1日(金)～11月16日(日) 「ポスターでたどる文学館」の30年・第2回」</p> <p>③ 令和8年1月29日(木)～3月31日(火) 「ポスターでたどる文学館」の30年・第3回」</p>	
ぶらり文学散歩	7月9日 9月30日 10月30日	<p>北海道ゆかりの作家の足跡や美術作品などを歩いて紹介</p> <p>① JR小樽駅～市立小樽文学館</p> <p>② 創成川イースト</p> <p>③ 北海道立近代美術館</p>	
文学館まつり	9月20日、21日、23日(火・祝)	<p>例年、開館記念日に、文学館に親しんでもらうため、ミニイベントを開催し、常設展は無料開放。今年は、開館30周年を記念して3日間開催</p> <p>① 親子手作りコーナー「ゆらゆらアニマルをつくろう」</p> <p>② 秋のミニ色紙づくり</p> <p>③ 三日限りの資料公開「色紙がいっぱい」</p> <p>④ 講演会「詩人としての長谷川四郎」</p> <p>⑤ 講座「三浦綾子と原田康子の戦争と青春」</p> <p>⑥ コンサート「秋の光を感じて」</p>	
項目	実施時期	事業内容	備考

<p>中島公園ぶん がく縁日</p>	<p>10月12日 (日)、13日 (月・祝)</p>	<p>文学関係者や愛好者を含め、多くの人たちが文学館に親しみ利用してもらうことを目的に文学関係の同人誌・結社誌・個人誌や自著のフリーマーケットを開催し、講演会なども開催。</p> <p>○絵本交換会、講演会「長谷川濬・四郎がいた時代の満州」、朗読会「長谷川海太郎・四郎の世界」、フリーマーケット(書籍等)</p>	
------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------